

Point

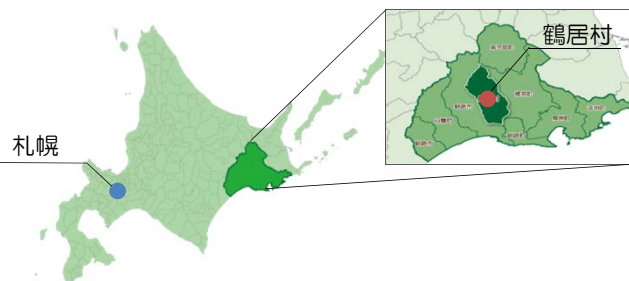
利用期を迎えた人工林資源を活用するための林業機械の導入などにより、木材販売額やおが粉製造量を増加させ、地域の活性化を図る。

地域の課題

鶴居村は、酪農を基幹産業とし、総面積57,180ha（林野率64%）の自然環境豊かな地域である。

地域林業は、人工林資源が利用期を迎え、今後の事業量の増加が見込まれるものの、林業用トラクターが不足していることなどから、十分な木材生産量を確保することができていない。また、H17年より運営を開始したおが粉施設は、拡大したおが粉需要に応えるだけの製造能力を備えていない状況である。

位置図



活性化計画

木材販売額**6,853**千円増、おが粉製造量**6,381**m³増

林業用トラクターの導入



新たに林業用トラクターを導入し、伐倒収材工程の効率化を図り、木材生産の安定供給体制を構築し、木材生産量を増加

おが粉施設の生産性向上



おが粉製造機的能力向上を図り、おが粉の製造量を増加させ、拡大するおが粉需要に応える

安定した酪農経営



酪農は、地域の基幹産業であり、おが粉は家畜用敷料等に用いられ、安定した酪農経営や生乳生産量の拡大施設の衛生管理の向上につながる

地域の活性化



業務量拡大による新たな雇用の創出、地域林業や地域基幹産業の酪農経営が安定することによって、地域全体が活性化する

交付金事業内容

事業期間：H30年

事業費：102,518千円（国費49,999千円）

事業目標：木材販売額の増加（22,841千円⇒29,694千円）

雇用者数の増加（0人⇒1人）

事業主体：鶴居村、鶴居村森林組合

事業内容：林業用トラクター1台、おが粉製造施設1式



林業用トラクターによる集材